

残留農薬検査(その4)

当所では、横浜市内に流通する農作物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成22年度より農作物当たりの検査項目数を追加し、検査体制を一層強化しています。

今回は、平成23年1月から2月末の期間に食品専門監視班より搬入された農作物等の検査結果を報告します。

1 国内産農作物

1月に搬入されたしゅんぎく(3検体)、みかん(2検体)及びはくさい(1検体)の計6検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、しゅんぎく3検体及びはくさい1検体から農薬がそれぞれ検出されました。ただし、検出された農薬について残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 輸入農作物

1月に搬入されたグレープフルーツ(5検体)、オレンジ(4検体)及びアボカド(1検体)の計10検体について残留農薬検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、グレープフルーツ4検体、オレンジ2検体及びアボカド1検体から農薬がそれぞれ検出されました。ただし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で検出された農薬の概要については、6ページの【農薬解説】を参考にしてください。

表1 残留農薬検査結果

(H23年1月～H23年2月末)

農作物	産地	検査 検体数	農薬検 出検体 数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
国内産農作物						
しゅんぎく	国産	3	1	フェントロチオン	0.04	0.2
			1	フェントロチオン	0.02	0.2
			1	クロチアニジン	0.06	0.2
みかん	国産	2	0			
はくさい	国産	1	1	ボスカリド	0.02	3.0
輸入農作物						
グレープフルーツ	アメリカ	5	1	イミダクロプリド	0.01	0.7
					メチダチオン	0.07
			1	イミダクロプリド	0.02	0.7
			1	クロルピリホス	0.01	1
			1	イミダクロプリド	0.01	0.7
オレンジ	オーストラリア	4	1	クロルピリホス	0.01	1
			1	メチダチオン	0.34	5
アボカド	メキシコ	1	1	シペルメリン	0.03	0.1

表2 農薬の検査項目及び検出限界(114項目)

農薬名	検出 限界 (ppm)	農薬名	検出 限界 (ppm)	農薬名	検出 限界 (ppm)
BHC (、 、 及び の和)	0.005	シハロトリン	0.01	フェンクロルホス	0.01
DDT (DDE、DDD及びDDTの和)	0.005	シフルトリン	0.01	フェンスルホチオン	0.01
EPN	0.01	シベルメトリン	0.01	フェンチオン	0.01
アクリナトリン	0.01	ジメチルピホス	0.01	フェントエート	0.01
アセタミプリド	0.01	ジメトエート	0.01	フェンバレレート	0.01
アゾキシストロピン	0.01	シメトリン	0.01	フェンピロキシメート	0.01
アルドリン及びディルドリン	0.005	スルプロホス	0.01	フェンプロパトリン	0.01
イソフェンホス	0.01	ダイアジノン	0.01	ブタクロール	0.01
イソプロカルブ	0.01	チアクロプリド	0.01	ブタミホス	0.01
イプロベンホス	0.01	チアメトキサム	0.01	ブプロフェジン	0.01
イミダクロプリド	0.01	チオベンカルブ	0.01	フルジオキシソニル	0.01
インドキサカルブ	0.01	チフルザミド	0.01	フルシトリネート	0.01
エスプロカルブ	0.01	テトラクロルピホス	0.01	フルトラニル	0.01
エチオン	0.01	テトラコナゾール	0.01	フルバリネート	0.01
エトプロホス	0.005	テトラジホン	0.01	プロシミドン	0.01
エトリムホス	0.01	テブコナゾール	0.01	プロチオホス	0.01
エンドスルファン (及び の和)	0.005	テブフェノジド	0.01	プロパホス	0.01
エンドリン	0.005	テブフェンピラド	0.01	プロビザミド	0.01
オキサミル	0.01	テフルトリン	0.01	プロメカルブ	0.01
カズサホス	0.01	テフルベンズロン	0.01	プロモプロピレート	0.01
カフェンストロール	0.01	デルタメトリン及び トラロメトリン	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
カルバリル	0.01	テルブホス	0.005	ヘキサフルムロン	0.01
クレソキシムメチル	0.01	トリアジメノール	0.01	ヘブタクロール (エポキシドを含む)	0.005
クロチアニジン	0.01	トリアジメホン	0.01	ベルメトリン	0.01
クロマフェノジド	0.01	トルクロホスメチル	0.01	ベンコナゾール	0.01
クロルピリホス	0.01	パラチオン	0.01	ホサロン	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	パラチオンメチル	0.01	ボスカリド	0.01
クロルフェナピル	0.01	ハルフェンプロックス	0.01	マラチオン	0.01
クロルフェンソン	0.01	ピフェントリン	0.01	マイクロブタニル	0.01
クロルフェンピホス	0.01	ピペロホス	0.01	メチダチオン	0.01
クロルプロファミ	0.01	ピラクロストロピン	0.01	メトキシフェノジド	0.01
クロロクスロン	0.01	ピリダフェンチオン	0.01	メトラクロール	0.01
シアノフェンホス	0.01	ピリブチカルブ	0.01	メトリブジン	0.01
シアノホス	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	メピホス	0.01
ジオキサベンゾホス	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	リニユロン	0.01
ジクロフェンチオン	0.01	ピリミホスメチル	0.01	リンデン(-BHC)	0.002
ジクロラン	0.01	フェナリモル	0.01	ルフェヌロン	0.01
ジコホール	0.01	フェントロチオン	0.01		

DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

【農薬解説】

イミダクロプリド

『アドマイヤー』などの商品名で販売されている殺虫剤で、即効的な殺虫効果があります。

平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬で、4～12月に実施した検査において、グリーンカール、チンゲンサイ(冷凍)、パプリカ及びほうれんそう(冷凍含む)から検出されたことがある農薬です。

クロルピリホス

『ダースバン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。果樹害虫防除用の薬剤で、特にハマキムシ類に効果があり、速効性と残効性があります。

平成22年4～12月に実施した検査において、ももから検出されたことがある農薬です。

シペルメトリン

『アグロスリン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。広く使用されている有機リン系農薬などに対して効きにくくなった多くの害虫に対しても効果があります。また、耐雨性及び耐光性に富み、長い残効性があります。

平成22年4～12月に実施した検査において、チンゲンサイ(冷凍)、ねぎ及びほうれんそう(冷凍含む)から検出されたことがある農薬です。

フェントロチオン

『スミチオン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。幅広い分野の多くの種類の害虫に対して効果があり、残効性もあります。

ボスカリド

『カンタス』などの商品名で販売されている殺菌剤です。各作物の灰色かび病や菌核病に対して高い効果があり、残効性や耐雨性もあります。

平成22年度より当所の検査項目に新たに追加した農薬で、4～12月に実施した検査において、いちご、トマト、パプリカ、ぶどう及びりんごから検出されたことがある農薬です。

メチダチオン

『スプラサイド』などの商品名で販売されている殺虫剤です。果実や野菜などの害虫に広く用いられており、浸透性と残効性があります。

参考文献

- ・社団法人日本植物防疫協会，農薬ハンドブック2001年版
- ・農薬残留分析法研究班，最新農薬の残留分析法(改訂版)
- ・農林水産消費安全技術センター及び各農薬製造会社H.P.

【検査研究課 微量汚染物担当】